



Title	留学生の学習・研究環境としての大学図書館 (2) : スペインの大学図書館における留学生利用調査
Author(s)	浜口, 美由紀
Citation	長崎大学留学生センター紀要. vol.7, p.173-189; 1999
Issue Date	1999-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/5566">http://hdl.handle.net/10069/5566</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-22T09:54:39Z

# 留学生の学習・研究環境としての大学図書館（2）

－スペインの大学図書館における留学生利用調査－

浜 口 美由紀

1. はじめに
2. EUのエラスムス計画
3. スペインにおける留学生受け入れ
4. スペインの大学図書館対象調査
  4. 1 スペインの大学および大学図書館の特徴
  4. 2 調査方法
  4. 3 調査結果
  4. 4 調査結果の考察
5. おわりに

キーワード：留学生 大学図書館 スペイン EU エラスムス

## 1. はじめに

留学生の学習・研究活動を支える機関である大学図書館利用に関して、昨年(1998)長崎大学に在籍する留学生を対象に対面式アンケート調査を実施し大学図書館利用の現状分析を行った<sup>1)</sup>。日本で学ぶ留学生は日本の教育研究機関をどのように利用しているのか、特に留学生の利用頻度が高いと思われる大学図書館利用状況に関する研究は国内においては報告が少ない。本稿は昨年の研究テーマを継続し、その第2部として海外の大学における留学生の大学図書館利用に関する調査を実施し、その調査結果を比較・考察したものである。

長崎大学全学部<sup>2)</sup>に籍を置く留学生の6割以上は大学院生であり、その多くは理系の工学・医学・歯学・薬学・水産学部<sup>3)</sup>に所属している。昨年の調査前の予測に反して、調査結果は留学生からの現実的な要望や提言が反映された内容となった。初めて日本の大学図書館を利用するに際して彼らを当惑させること、日本人学生を中心とした図書館利用の中では見えなかった点、留学生が直面す

る図書館内の「日本語」の壁の問題などが浮き彫りになった。同調査では、留学生の視点を通して、日本での大学教育や研究活動に欠くことのできない大学図書館利用の現状と今後の課題を提示することができた。

メディア環境の進展は、留学生が大学図書館を利用する目的にも変化をもたらしている。図書館のパソコンを利用してインターネットで自国の新聞や雑誌を閲覧したり、自国の大学や友人、家族とE-mailの交換を行っている。大学図書館を利用して生活情報を収集し、活用していることも同調査で明らかになった。4年前に来日した留学生の場合、来日直後の図書館利用と現在とでは資料の検索など利用方法を変えざるを得ないほど、図書館とそれを取り巻く情報環境に大きな変化があったと報告している。

本稿の課題とするのは次の3点である。1つは、海外の大学において大学図書館を日常的に利用している留学生を対象とした図書館サービスの現状を知ること。2点目は、昨年調査結果と海外の大学における留学生の大学図書館利用調査結果を比較すること。3点目は、昨年の調査で提示された課題を海外ではどのように対応しているか比較することである。

本稿で比較対象とするのはスペインの大学図書館である。筆者は一留学生としてスペインの大学に在籍し大学図書館を使用していた。留学生の立場で利用したスペイン大学図書館と、日本の大学図書館の2ヶ国について留学生の視点から比較することを試みる。加えて、スペインはEU(欧州連合)の加盟国である。EUは高等教育機関間の交換留学プログラム「エラスムス計画」を施行し、12年が経過した。言い換えれば、EU圏内の大学機関は留学生受け入れに12年間の実績があると言えよう。同プログラムの交換留学生はスペインにも多数在籍している。実績を考慮した上でスペインの留学生教育に次の2点について期待した。1つは、スペインの大学は、12年間の留学生受入実績が留学生教育に反映されているのではないか。次に大学図書館において、留学生の利用実績が図書館サービスに反映しているのではないという点である。

加えて、ヨーロッパにおける実践的な留学制度の現状が本調査の中から浮かび上がってくることも概観する。

## 2. EU(欧州連合)のエラスムス計画

1999年1月1日に欧州の単一通貨ユーロが誕生しEU(欧州連合)の経済統合が実現されたことによって世界市場に新たな歴史が刻まれ始めた。教育の面

においても留学生の交流が積極的に図られているヨーロッパでは広範囲な国々を対象としたエラスムス計画 (ERASMUS) が知られている。

エラスムス計画は1987年に創設され、ヨーロッパ圏内の大学間の学生・教員の交流を図り、人材養成、科学、技術分野の質的な向上、教育分野の振興、社会の発展に貢献することを目的とした教育プログラムである<sup>2</sup>。

1987年以降エラスムス制度を利用した約500,000人の学生が留学経験を通してヨーロッパの市民権の確立に貢献してきたと言われ、将来的にも同制度を利用する学生がヨーロッパの発展に何らかの寄与することは明らかであろう。EUの高等教育の中で同制度は確実に影響を与えつつある。

エラスムス計画は1995年に全EUを統括する教育プログラム「ソクラテス計画 (SOCRATES)」に組み込まれた後、国境を越えたヨーロッパ統合 (europeanisation) を目指す高等教育プログラムの1部門としてシステム化され、同プログラムは1995年から1999年の期間運用されている。参加規模は、現在24ヶ国でその内訳は、EU加盟国15ヶ国 (ベルギー、デンマーク、ドイツ、ギリシャ、スペイン、フランス、アイルランド、イタリア、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランド、スウェーデン、イギリス、ルクセンブルグ、EU経済地域 (European Economic Area) の3ヶ国 (リヒテンシュタイン、ノルウェー、アイスランド)、その他にはEU新規加盟交渉を開始した5ヶ国を加えた6ヶ国 (ハンガリー、ルーマニア、ポーランド、スロバキア、チェコ、キプロス) である。

1998/1999年のソクラテスプログラムに参加している大学は1,600大学、参加学生は200,000人以上、大学教員の交流は35,000人以上に上る。

エラスムス交換留学は、約1000の高等教育機関間で単位互換制度 (European Credit Transfer System:ECTS) が提携され、受入れ大学では上限60単位までの単位互換が承認されている。現行の奨学金制度は、留学生の生活費の負担軽減を目的としている。支給金額はあくまで生活費の一部を賄うものとして支給され、支給は現地の物価に換算した金額が支払われている。1998/1999年のエラスムスの年間予算は、116億2,500万エキュ (ECU)<sup>3</sup>が計上され、昨年と比べると18.8%の増加を示している。留学生奨学金の融資には8億2,700万エキュがあてられており、EUにおける教育分野の人材育成への取り組みの高さが伺える。(新通貨はユーロに切り替わり、1ユーロは1999年5月現在131円)

表1 エラスムス交換留学生国別学生数 1998/1999<sup>4</sup>

国名	交換留学 参加大学 数	留学する 学生数		受け入れ 留学生数		ヨーロッパ 圏内学生数 の比率
ベルギー	80	8,477	4.3%	9,175	4.6%	2.6%
デンマーク	89	4,593	2.3%	4,687	2.4%	1.2%
ドイツ	240	32,686	16.4%	29,193	14.7%	15.5%
ギリシャ	31	3,855	1.9%	4,533	2.3%	2.4%
スペイン	71	25,778	12.9%	23,501	11.8%	11.6%
フランス	316	31,707	15.9%	32,368	16.3%	15.2%
アイルランド	29	3,536	1.8%	4,432	2.2%	0.9%
イタリア	93	18,134	9.1%	16,864	8.5%	12.9%
ルクセンブルグ	2	36	0.0%	45	0.0%	0.0%
オランダ	66	11,069	5.6%	11,412	5.7%	3.5%
オーストリア	58	4,405	2.2%	4,549	2.3%	1.8%
ポルトガル	71	5,449	2.7%	5,116	2.6%	2.2%
フィンランド	77	7,457	3.7%	6,698	3.4%	1.6%
スウェーデン	48	6,999	3.5%	7,299	3.7%	1.9%
イギリス	190	26,193	13.2%	32,101	16.1%	13.2%
アイスランド	8	262	0.1%	319	0.2%	0.1%
リヒテンシュタイン	2	0		0		
ノルウェー	41	2,871	1.4%	2,717	1.4%	1.3%
<b>小計 18</b>	<b>1,512</b>	<b>193,507</b>	<b>97.2%</b>	<b>195,009</b>	<b>97.9%</b>	<b>87.9%</b>
キプロス	2	117	0.1%	64	0.0%	0.0%
チェコ	22	1,131	0.6%	877	0.4%	1.3%
ハンガリー	36	1,107	0.6%	1,011	0.5%	0.6%
ポーランド	49	1,614	0.8%	1,138	0.6%	6.7%
ルーマニア	31	1,551	0.8%	889	0.4%	2.7%
スロベニア	9	75	0.0%	114	0.1%	0.7%
<b>小計 6</b>	<b>149</b>	<b>5,595</b>	<b>2.8%</b>	<b>4,092</b>	<b>2.1%</b>	<b>12.1%</b>
<b>合計 24</b>	<b>1,661</b>	<b>199,102</b>	<b>100.0%</b>	<b>199,102</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>

表1から、エラスムス制度を採用する上位5ヶ国は、ドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペインの順であることが分かる。上位3ヶ国はEU

内における経済の影響力とも比例するであろう。上位3ヶ国の派遣する交換留学生数は同制度の留学生総数の45%を占めており、参加大学数も44%に達する。EU新規加盟交渉が開始されているキプロス、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロベニアにおける同プログラムの利用率は全体の約2%にとどまっている。

留学生の専攻が多い分野は、ビジネス(19%:エラスムスの全留学生数の内)、言語と哲学(15%)、工学とテクノロジー(12%)、社会学(10%)である。今後もプログラム参加の動向が注目されるところである。

### 3. スペインにおける留学生受け入れ

スペインの留学生の受入状況についてはソクラテス計画の実数が公表されているにとどまり、EU諸国を除いた留学生の出身国の実数を知ることは難しい。スペイン統計局(INE)が公表している統計書にもスペイン国内における留学生総数に関するデータは見あたらない。

筆者が留学していた国立グラナダ大学が毎年刊行している「大学学生数統計」には、学部毎に出身地名とその出身の学生数が掲載され、留学生数はその中に混在した記述となっている。よって留学生単独の項目は存在しない。毎月長崎大学学務部留学生課が公表している「長崎大学外国人留学生数」(国別の学部・大学院・研究生数)に類するデータのリストはグラナダ大学から知ることはできない。

私立ナバラ大学は大学の公式ホームページ上で留学生に関するデータの閲覧ができる。留学生に支給されている奨学金の種類や出身国別人数などが詳細に公表され、当大学を留学志望する学生、特にラテンアメリカの学生にとっては貴重な情報提供となるであろう。しかし、国立大学に関しては留学生に関するデータはホームページ上では公開されていない。

スペイン国内で留学生に関する唯一公式なデータを公表しているのはエラスムス計画だけである。以上の理由から、同データを基にして留学生受け入れ状況を考察する。

表1によると、1998/1999年にスペインで受け入れたエラスムス交換留学生数は23,501人である。同様にスペイン人学生を交換留学生として25,778人派遣している。スペイン人は留学生の受け入れ人数よりも2,277人多く派遣している。エラスムス参加24ヶ国中スペイン人学生が占める割合は5番目に位置し、

スペインの71大学機関が同制度を積極的に活用し学生を派遣している。

表2から、受け入れ学生数の多い国はフランス、デンマーク、イタリア順であることが分かる。スペイン人学生の留学先として多い国はフランス、イギリス、イタリアである。フランスとは2ヶ国間の交流が最も活発に行われている。両国ではそれぞれスペイン語とフランス語を第二外国語として、義務教育期間中に語学教育を行なっている。そうした影響を受けてか2ヶ国間の大学生は文学・言語学部へ語学留学する傾向が多い。

表1, 2からは学部生と院生の区別は不明である。

表2 スペイン国内の国別エラスムス交換留学生数(上位10ヶ国) 1998/99年

	出身国	留学生数
1	フランス	5,297
2	デンマーク	4,027
3	イタリア	3,833
4	イギリス	3,351
5	ベルギー	1,207
6	オランダ	1,162
7	ポルトガル	1,158
8	スウェーデン	607
9	ドイツ	533
10	フィンランド	494

エラスムス交換留学生は、派遣国の語学試験合格後に派遣されているので一定レベルの語学力を納めていると見なされている。同プログラムの留学生はスペインでの授業を受講するためスペイン人と同レベルで理解できる語学力が必須となる。留学生もスペイン人と同一条件で授業を受け、レポートが課せられ、当然学期末には学科試験を受けなければならない。単位互換制度が施行されているので、留学生がスペインで付与された単位は本国の大学の単位に加算される。

スペイン語は、同じくラテン語から派生したフランス語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語のイタリック語派に属している。この言語背景を持つ国(アフリカのフランス語圏も含め)の留学生は均質な言語の特質が発揮され、比較的速くスペイン語を修得している。

## 4. スペインの大学図書館対象調査

### 4. 1 スペインの大学および大学図書館の特徴

本調査を実施するにあたり、調査対象としたのは留学生ではなく、スペインの大学図書館である。大学図書館は大学施設の中で留学生の利用頻度が高く、学部や出身国の違いに関わらず留学生との日常的な接点がある。

スペインの大学は、社会的背景や大学創立の歴史が日本とは異なっている点が多く、一様に比較ができない。そのためスペインの大学と大学図書館の特徴を簡潔に補足する。

スペインの国立大学の多くは数世紀に渡る古い歴史がある。その中で最も歴史のある大学は1255年に創立されたサラマンカ大学である。ローマ教皇からボローニャ、パリに次いで3番目に認可された大学である。

スペインは地域性が強い国であり、加えて大学においては伝統と大学自治の意識が高く、その点では昨今の開かれた大学とはまだ距離がある。

当然ながら大学に附属する大学図書館の歴史も長く、歴史的な価値が認められる写本やインキュナブラなどの資料が多数蓄積されている。これらの貴重資料を収集する「公文書館」(Archivo)は大学図書館内に併設され、または単独の「公文書館」が大学内に設置されている。図書館は資料の保存とその継承を重点的に行ってきたため、図書館利用サービスは図書館の課題となっていた。大学図書館は中央図書館に加えて多数の学部・学科図書館から構成されている。

EU圏内の留学生は、既述の通り文系に分類される言語・哲学・経済などの学部や学科に多く所属している。スペインにおいても同様の傾向が見られる。その点において留学生が大学図書館の資料を利用する頻度が高くなることが容易に想像がつく。

一般にスペインの大学図書館は日本と比べて資料の貸出冊数が少なく、雑誌の貸出をしない等の若干の利用制限がある。

スペインの大学数は、国立大学44校、私立大学6校である。

#### グラナダ大学中央図書館

スペインの大学図書館の一例として、筆者が利用したグラナダ大学中央図書館を説明する。当大学の図書館システムは中央図書館、公文書館、21の学部・学科図書館から構成される。学科付設の小規模図書室も同大学の図書館数に数えられている。対象となる利用者は大学に登録している学生、教職員、卒業生、



一般、他の大学図書館である。

学生は中央図書館及び利用を希望する学部図書館に出向き、各館毎に自ら登録手続きを申請しなければならない。申請者は図書館利用カードに添付する証明写真を持参後、申請料を図書館に支払う。カードが交付されるのは1週間から10日後である。日本の場合、入学後に交付される学生証は図書館利用カードとして兼用で使用されるケースが多く、手続きは無料である。

資料の貸出は、学生は3冊まで1週間、卒業生と教員は7冊まで30日間借りることができる。貸出期間中、図書館は学生の図書館利用カードを保管し、返却と同時に学生へ戻すシステムになっている。夏休み期間は図書館は約1ヶ月間閉館となる。

新年度の9月から10月には図書館に関するガイダンス、オリエンテーション、説明会などは実施されなかった。入学時には学生用小冊子「キャンパスライフガイド」が配布される。掲載内容はグラナダ大学や市内の生活に関する情報である。同誌が紹介する大学図書館案内には、図書館の所在地と開館時間の情報が掲載されているだけである。同誌の配布は不定期に行われるため入手が難しい。

大学図書館の利用に際しては、図書館全体の情報、例えば大学図書館サービスの内容、各学部図書館が所蔵する資料の種類などを知る手段がなく、効率良く図書館を利用できるまでに時間を無駄に費やすことになる。利用者は図書館に慣れるまで頻繁に図書館職員に尋ねる結果となる。留学生への対応も一般学生と同様であり、特別に図書館案内が催されることはなく、スペイン語またはその他の言語で書かれた図書館パンフレットは存在しなかった。大学院に所属している留学生は、自国の大学図書館システムに慣れている為に、当初グラナダ大学図書館システムの違いにとまどい利用に慣れるまでの時間を無為にしてしまう傾向が見られた。

しかし、現在はグラナダ大学のホームページ上で中央図書館を中心とした図書館案内と図書館サービスの詳細が公開されており、英語バージョンへ切り換えもできる。また図書館への質問・意見を受け付けるメールアドレスも公表されている。加えて図書館案内パンフレットも館内で配布されている。この数年の間に図書館サービスは、利用者の利便性を考慮したサービスの改善が行われてきており、留学生も使い易いサービス環境が整備されてきている。

#### 4. 2 調査方法

スペインの43大学の大学図書館、主に中央図書館を調査対象とした。大学が公開している大学公式ホームページ上の図書館電子メールアドレスまたは、利用サービス担当職員のメールアドレス（公開されているアドレス）宛に本調査の趣旨と添付したアンケート調査票を直接送信して協力を求めた。大部分の大学中央図書館は専用メールアドレスを公開していたが、メールアドレスがない場合には、当該大学の情報サービス部や学部図書館のメールアドレス宛に送信を行った。しかし、担当が異なる部署に送付してしまった時には、該当する部署のメールアドレスが表示されメールが返送されたので、再度該当部署へアンケート調査票を送信した。

アンケート調査票は10項目の質問項目を設定して自由記述方式とした。調査票の言語はスペイン語を使用した。

#### 4. 3 調査結果

43大学にアンケート調査を依頼して回答を得たのは6大学7図書館であった。以下は回答を得た大学名である。ナバラ大学は回答中唯一の私立大学であり、その他は国立大学である。スペインの私立大学は6大学しか設置されていない。私立大学は国立大学と比較すると非常に学費が高く、入学希望者はかなり限定される、一方大学施設などの教育環境は整備されている。その点においてナバラ大学やその大学図書館は国立大学とは条件的に異なるかもしれないが、本調査ではその違いは明確に現れていない。本調査では中央図書館を対象としていたが、エストレマドゥーラ大学からは中央図書館と看護・商学学科図書館の2館から回答があった。しかし、中央図書館は全学の情報を統合して回答していたため中央館の回答を採用した。

##### 回答があった6大学図書館

- ・ エストレマドゥーラ大学 (Extremadura)
- ・ カルロス3世大学 (Carlos III)
- ・ バレンシア大学 (Valencia)
- ・ コルドバ大学 (Córdoba)
- ・ オビエド大学 (Oviedo)
- ・ ナバラ大学 (Navarra: 私立大学)

大学の学生数に対して留学生の割合は1%前後である。

表3 回答大学に関する情報

大学名	教授数	学生数	理系 学部	文系 学部	留学生 総数	エラスムス 交換留学生	中央 図書館	学部 図書館
エストレマドゥーラ大学	1,308	23,352	8	10	111	100	2館 あり	16
オビエド大学	2,025	43,189	15	11	486	294	あり	21
カルロス三世 大学	1,531	17,870	1	2	268		なし	3
バレンシア 大学	2,990	64,552	6	13		560	なし	3
コルドバ大学	1,112	22,070	7	4	230 (1997)	230 (1997)	あり	11
ナバラ大学	2,500	17,000	7	18	630	88	あり	4

以下、調査項目に沿って6大学の回答を列記していく。

#### (1) 留学生の出身国

回答があった大学の留学生の大半はエラスムス交換留学生であるので、出身国はほぼEUの国々である。特にドイツ、フランス、オランダ、イギリス、イタリアからの留学生が多く記載されている。

一方、ナバラ大学ではエラスムス交換留学生総数よりもそれ以外の留学生が多い。エラスムスを除いた留学生の中で最も多いのは、ラテンアメリカ出身の留学生である。ナバラ大学は、ラテンアメリカの大学生でジャーナリスト志望者を対象とした奨学金制度を独自に設定しており、ラテンアメリカからの留学生が339人と最も多い。ナバラ大学では他にアジアからの留学生は84人、アフリカからの留学生は42人報告されている。

エストレマドゥーラ大学にはエラスムス以外にラテンアメリカ出身の留学生が「大学交換制度」を利用して同校に在籍している。

## (2) 留学生の所属学部

留学生が所属する主な学部は、哲学、経済、法律、社会法律学、神学、文献学である。これらの学部はいわゆる文系学部に分類される。エラスムス交換留学生が多い学部は文系学部と前述したが、回答大学でも同様の傾向が見られる。ナバラ大学が5大学と異なるのは、神学部に所属する神学生の留学生が多数在籍することである。理系学部に所属する留学生数が多いのはオビエド大学の医学部であった。

## (3) 図書館利用に関する質問

### a. 図書館利用登録申請に必要な条件

大学図書館利用者の基本要件は次の2点である。当該大学に在籍していること、留学生とスペイン人学生は同一条件で利用申請を行うことである。6大学すべてに共通する要件であった。

### b. 留学生を対象とした図書館利用案内（ガイダンス）の実施

6大学図書館すべてに行っていない。

### c. 留学生用の図書館案内（パンフレット等）の作成

オビエド大学はスペイン語と英語の2ヶ国語のパンフレットを作成している。コルドバ大学はスペイン語の案内が配布されているが、大学図書館利用者一般を対象とした案内と思われる。ナバラ大学では図書館の蔵書検索用端末画面は英語バージョンの選択ができる。

4大学は作成していない。

### d. 図書館内の案内表示について

6大学は館内の案内表示をスペイン語で行っている。スペイン語以外の言語は館内表示やサイン表示には使用されていない。

## (4) 大学図書館員に関する質問

### a. 留学生専用コーナーの設置と担当職員の有無

6大学はいずれも留学生専用コーナーを設置しておらず、当然ながら担当職員も配置されていない。

### b. 利用者担当の図書館職員は外国語を話すか

バレンシア大学では利用者担当の職員は英語を話すことができる。

## (5) 図書館の資料

## a. 留学生用資料コーナーを設置しているか

長崎大学附属図書館内には留学生コーナーが設置されており、日本を紹介する英文資料や日本語学習用テキスト、長崎関連の情報誌などを揃えている。同様にスペインの大学図書館内にも留学生用資料コーナーが設けられているか確認する設問であったが、6大学いずれも設置されていなかった。

## b. 留学生用の資料購入費の計上

6大学すべて留学生用の資料購入費予算は配分されていない。

## (6) インターネット

## a. 図書館内で留学生が利用できるコンピュータは何台設置しているか

長崎大学図書館の場合、一般学生用とは区別して留学生コーナーに隣接して彼らの利便性を考慮し留学生専用端末を6台設置している。同じ趣旨でこの設問を設定した。

5大学は、図書館利用者のコンピュータ利用は自由であり、利用者の制限はない。所有台数には格差があり、ナバラ大学が少なく12台、最も多いのはコルドバ大学で500台であった。これは学部図書館を含めた大学図書館内の総数と思われる。1大学図書館のみが、利用者用コンピュータを設置していない。

## b. コンピューターの使用時の手続き

特別な手続きはないが、ナバラ大学は学生証が必要とあり、利用時には学生証の提示を求めるのであろう。エストレマドゥーラ大学は図書館利用カードを必要としている。

## c. 留学生のE-mailアドレスの取得

4大学はメールアドレスの取得が可能であり、1大学が取得できない。エストレマドゥーラ大学ではメールアドレスの申請は大学の情報センターで申請手続きを行う。

## d. 図書館内の留学生のインターネット利用法

ナバラ大学から、留学生はインターネット上で出身国の新聞を閲覧したり、E-mailを利用してメールの交換を行っているとの報告があった。エストレマドゥーラ大学ではインターネットの利用状況に関する記録

は取っていないと記されていた。残念ながら留学生のインターネット利用状況に関しての記述はナバラ大学1校であった。

以下(7)(8)(9)は留学生の図書館利用と直接には関係しないが、広義に留学生の図書館利用を含んだ設問である。

#### (7) 外国語資料の所蔵

図書館で所蔵する外国語資料はどの言語の資料が多く収集されているかを問うた設問である。6大学に共通して収集している外国語資料の多くは英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語の4ヶ国語の資料である。次に多いのはポルトガル語資料であった。エストレマドゥーラ大学では外国語資料はスペイン語資料と区別することなく収集している。

#### (8) 外国語雑誌のタイトル数

オビエド大学は3,500タイトル、バレンシア大学は3,809タイトルの外国語雑誌を所蔵している。ナバラ大学は5,000タイトルを所蔵しており、雑誌の主なジャンルは科学分野と調査研究を主題とするものである。

#### (9) 外国語新聞数

カルロス三世大学は5タイトル、ナバラ大学は20タイトルの外国語新聞を所蔵している。4大学は記載がない。

#### (10) 意見

##### a. 留学生を対象とした大学図書館における利用者サービスに関して

ナバラ大学は、「一般の利用者と等しく対応すべきで、留学生を対象とした図書館サービスは必要ではない。しかし、図書館は留学生に対して利用方法の説明や彼らを支えることが必要である。また留学生の多い国に関する資料(新聞やインターネット)を図書館で揃え、情報提供することは図書館の課題であろう」と述べている。

エストレマドゥーラ大学は、「大学図書館はスペイン人学生と同様に図書館利用者としてのサービスを行うべきである。しかし、留学生が図書館利用に支障がないように特に言葉に関して援助していく必要が

ある」と記述している。

- b. 他の大学図書館と留学生対象の図書館サービスに関して協力を行っているか

6大学すべて、他の大学図書館との協力を行っていないと回答があった。

#### 4. 4 調査結果の考察

回答は6大学7大学図書館から得られた。スペインにおける留学生の大学図書館利用状況を知る実数として少なかつたことは残念であった。しかし、6大学と言えども現状を知る上で貴重な回答であったことは確かである。本調査の回答の中で期待していたのは、スペイン国内でスペイン語と併用して使用されている3言語圏の大学図書館からの回答であった。ガリシア語、バスク語、カタルーニャ語は3つの自治州がスペイン語と共に公用語として使用する言語である。この地域の大学図書館の対留学生サービスは他の自治州と異なるのか興味のあるところであったが、回答が得られなかった。

本調査は電子メールを利用して実施した点は有効であったと思う。それは、調査の趣旨を直接担当者へ説明したり、担当者からの質問に対する返答を瞬時に送信することができた。電子メールを活用した調査方法のメリットは、回答のレスポンス及び返送時間が短縮される点、時差に関係なく海外との情報交換を可能にする点、アンケート協力者の返送手段の負担<sup>5</sup>を軽減する点であった。

当調査対象の留学生の出身国にEU圏内の国が多い理由は、エラスムス交換留学生が多数を占めており、その上エラスムスの公式なデータが公表されているからである。同じスペイン語圏であるラテンアメリカ諸国からの留学生は少ない。今回の調査結果には顕れていないが、スペインの大学に在籍するモロッコ人留学生は相当数に上る<sup>6</sup>。しかしながら、国立大学は国別留学生総数を公表していないために、スペインの留学生総数に占めるエラスムス留学生の比率は明確には分からない。

長崎大学の留学生と6大学の留学生の最も異なる点は、双方の専攻分野が重ならないことである。長崎大学は既述の通り半数以上理系の学部には所属しているが、スペインの留学生は哲学、文学、法律など文系の学部には多数所属している。一般に文系と理系の学生では図書館の利用方法に違いがある。文系の学生は図書館の資料（公文書館も含む）を使って研究する割合が理系の学生より大

きい。スペインの場合文系学部の留学生が多い上に図書館の貸出冊数が少ないので、館内で図書館資料を閲覧して図書館を利用する学生が多い。

6大学すべて、留学生向けの図書館案内パンフレットやガイダンス、館内でのスペイン語以外の言語による表示は行っていない。2大学ではスペイン語の案内パンフレットが作成されている。新年度に図書館ガイダンスを実施しているか不明であるが、これはスペイン人学生を対象としたガイダンスも実施されているか不確定であるので留学生に限って行われていないとは断定できない。この点においても、留学生とスペイン人学生を区別することなく「学生利用者」として、図書館は留学生への特別な働きかけ(ガイダンスや説明会など)は実施していないようである。長崎大学附属図書館は昨年(1998)から日本語研修コース受講生を対象とした英語による図書館案内ガイダンスを開始した。留学生を閲覧室、書架、留学生コーナー、コンピュータルームへと案内し、その場所で説明と利用の仕方及び入館方法について英語で説明する初めての取り組みであった。

図書館資料に関して、長崎大学は「留学生コーナー」を設置しているが、6大学では特別なコーナーや担当の係りは設けられておらず、予算も計上されていない。図書館所蔵の外国語資料や外国語雑誌は、学部・学科に関連する主題の資料が収集されており、当然ながら留学生専用のコレクションではない。

外国語新聞の所蔵タイトル数は2大学からの回答であったので平均的な所蔵タイトル数は不明である。

筆者が在籍していた当時はインターネットが世界的に普及し始めた時期であったが、大学図書館内には蔵書検索用を使用される端末が2台あるだけだった。大学は学生にメールアドレスは配布しておらず、教職員のみが取得できた。当時、教職員の名刺にメールアドレスを印刷する習慣はまだ一般的ではなかった。

現在4大学は、スペイン人学生および留学生は個人のメールアドレスの取得が可能である。図書館のパソコンを使用する場合は図書館利用カードや学生証を提示することになっている。留学生のパソコンやインターネット利用状況に関してはまだ十分な報告がない。

この数年の間に飛躍的に普及してきたホームページであるが、1997年の前半にスペインの大学の情報をインターネットで検索した時は、ホームページを開設していた大学は僅かであった。本調査にあたり再度スペインの大学を検索すると9割以上の大学がホームページを開設しており、大学自ら情報を発信して



いる。ホームページは全て英語バージョンで閲覧でき、大学によってはフランス語やカタルーニャ語、バスク語バージョンを選択できるようになっている。英語、フランス語バージョンの設定は留学生の図書館利用を便利にしている上に、海外からのアクセスも可能である。但し、ホームページ上の情報は、図書館利用に際して必要最低限の情報が掲載されているものから、当該大学図書館の歴史や各サービスにわたる詳細な説明文とイラストや写真を取り入れて図説しているものまで、掲載内容の情報の量は格段の差がある。電子メディアの発展に伴うインターネットの普及とホームページの開設は、留学生に映像と文字による簡易な図書館案内をもたらす波及効果を生みだした。更に画面上ではスペイン語に加えて、英語またはフランス語の選択肢が用意されており、言語の切り換えによって留学生に図書館の基本的な情報とその利用方法をより分かり易く伝えている。

## 5. おわりに

日本の大学、特に国立大学に在籍している留学生は主に理工系や医学・歯学・薬学・農学・水産学系の大学院で研究活動を行っている。留学生が高い頻度で利用する大学図書館には、学習・研究に欠かせない資料が揃い、最新の機器やコンピュータが設置され、専門領域の情報収集や情報検索、データベースが利用できる環境が整えられている。専攻学部や分野により資料の利用法や情報収集方法に特徴が見られるとはいえ、大学図書館は必要な教育施設である。

留学生は、日本語予備教育を終了後に、あるいは日本語の習得を継続しながら、並行して大学院で研究活動を行っている。しかしながら、非漢字圏出身の留学生は、図書館利用において漢字の問題が立ちはだかっている。例えば、漢字表記の館内の案内や端末のマニュアルが日本語しかない場合など、図書館利用を躊躇してしまう場面が報告されている。

一方、均質な母語を持つヨーロッパの留学生の大学図書館利用と比較して、非漢字圏の日本の留学生が大学図書館を利用する時に生じる問題は「言葉」だけに起因するのであろうか。この課題を考察する比較対象として、今回の調査は設問設定についてより熟慮する必要があるがあった。加えて回答数が少ないことに拠り、スペインの大学図書館利用状況の全般的な把握が難しい。今後の課題とするところである。

## 注

- 1 浜口美由紀 1998
- 2 <http://europa.eu.int/en/comm/dg22/socrates>  
「ヨーロッパ統計年鑑」1997年刊行まではエラスムスの統計が掲載されていたがその後EUの公式ホームページが開設され、以後最新統計は上記アドレス中に公開されている。
- 3 エキュ(ECU)は1999年1月1日より新通貨ユーロ(EURO)に自動的に切り替わりユーロとエキュは1対1の比率になった。現在1ユーロは131円。
- 4 <http://europa.eu.int/en/comm/dg22/socrates>
- 5 スペインの通信料金はヨーロッパの中でも高額であり、郵便は延滞の可能性が  
ある。
- 6 Universidad de Granada. 1996.  
Guía de las salidas Universitarias 1994-1996. p.1063.

## 参考文献

- (1) 浜口美由紀 「留学生の学習・研究環境としての大学図書館－留学生の大学図書館利用調査を通して－」 『長崎大学留学生センター紀要』第6号 1998
- (2) EDUCACION FORMACION JUBENTUD "SOCRATES -Guía del candidato 1997-" COMISION EUROPEA 1996
- (3) 「ヨーロッパ」 No.215 駐日欧州委員会代表部広報部 1999

(留学生センター非常勤講師)